新「共通特論Ⅱ」：臨床腫瘍学各論

個別化医療に向けた婦人科腫瘍に対する治療

講義日：2023 年 12 月 2 日（土）

講師：松村　謙臣（近畿大学医学部　産科婦人科学教室　教授）

要旨

本講演では、婦人科がんに対する個別化医療について解説する。進行卵巣癌では、*BRCA1/2* 変異や DNA 相同組換え修復異常の有無が PARP 阻害剤の感受性に大きく影響を及ぼし、手術と薬物療法の組み合わせにより治癒を目指せるようになった。子宮体癌は、４つの分子サブタイプに分けることが一般的になりつつあり、再発時には DNA ミスマッチ修復異常があれば免疫チェックポイント阻害剤が顕著な効果を示す。またそれ以外の腫瘍でもマルチキナーゼ阻害剤との併用が有効である。子宮頸癌は、HPV ワクチンによる予防が重要である。進行、再発例では、免疫チェックポイント阻害剤と化学療法の併用療法が有効である。このように、最近は婦人科がんに対する個別化医療において、分子標的薬の役割が大きくなってきている。